

対人援助専門職としての学びのプロセス

非対面状況での実践の課題と新たな可能性

新型コロナウイルス感染拡大によるパンデミック状況の中、大学の授業も従来のやり方では実施できなくなっている。教員、看護師、保育士、心理職等の対人援助専門職の養成は、実習を始めとした対面での学習の割合が特に高かったため、対面での授業ができない状況は深刻な問題になっている。

そんな中、専門職養成を担う大学では、オンラインでの遠隔授業に取り組むなど、問題解決に向けてさまざまな工夫が重ねられている。大学ごとに多様な制約を抱えながらも、実施できることを実施できることから始め、これまでになかった発想・方法での新たな教育実践が生まれつつある。

2020年2月の本ラウンドテーブルにおいて、教員、看護師、保育士、心理職等の対人援助専門職としての学びのプロセスを探ってきた Zone B2 では、対人援助専門職養成において、実践の状況を的確に読み取る「アセスメント」と、それを下支えする「省察」、そして省察の深まりと広がりを支える「仲間関係（同僚性・協働性）」を初学者のうちから体験しておくことの重要性が示された。

今回のラウンドテーブルでは、これら3つの知見を踏まえながら、現在のコロナ禍において、たとえ対面での授業ができないオンライン状況であっても、対人援助の専門職養成を担う大学が保障しなければならない教育とは何なのか、また、それをどのように行うのか、そして、遠隔授業というこれまでになかった状況から、図らずもどのような新たな教育実践の可能性が見いだされつつあるのかに注目し、このような状況だからこそ鮮明になる専門職養成の本質を参加者の皆様と探っていききたい。

13:00-13:10 **オリエンテーション**

13:10-14:40 **シンポジウム**

シンポジスト 大川洋子(福井県立大学 看護福祉学部 看護学科長 教授)

増田 翼(仁愛女子短期大学 幼児教育学科 准教授)

コーディネーター 廣澤愛子(福井大学 大学院連合教職開発研究科 准教授)

15:00-17:00 **グループ・セッション**

※ 今回はすべて遠隔会議システム Zoom を使って実施いたします。前日(6月19日)までに参加申込時に入力いただいたメールアドレスに招待メールを配信いたします。

※ 本件、問い合わせ先 dpdtfukui.rt.b2@gmail.com